

## 有識者意見の概要及び意見に対する見解

1. 調査研究課題名 国土交通分野の将来見通しと人材戦略に関する調査研究	
2. 有識者意見の概要及び見解 有識者：蟹澤宏剛教授 芝浦工業大学 工学部建築工学科 浦江真人教授 東洋大学 理工学部建築学科	
意見の概要	意見に対する見解
建設会社の許可業種別に、不足している職種を集計することが可能ではないか。	業種別に「不足している職種」を集計した。各社の許可業種に関連する職種が不足しているほかに、多くの業種で土木建築技術者・大工が不足していると回答している (p.91)
離職率を視点とした分析ができるのではないか。	離職率を視点とした分析をいくつか行い、離職率の高い企業は従業員数が少ない、研修日数がやや短い、近年離職率がさらに高くなっている、給与・休日の多さをアピールポイントに挙げる一方で福利厚生・教育・雰囲気・将来性は挙げない、仕事のきつさを人材確保の課題としている、離職理由で「意欲が低い」「仕事についていけない」「人間関係」を挙げる、などの特徴がみられた。(p.203～217)
普通高校などに採用活動をしている企業に有効な手法を示せればよいのではないか。募集している会社(予定含め)はすでに6割であり、工業高校の生徒と同じ働きを期待しているのだから、採用につながるような方策を示せたらよい。	普通高校に求人を出している企業の特性について分析を行った (p.218～229)。今回のアンケートは普通高校を対象としていないため、それら企業がとるべき方策などについて分析を行うことは今後の課題としたい。
進路指導で「生徒に建設業をすすめにくい」と回答している学校では、進学をすすめているのだろうか。最近、工業高校でも就職ではなく、進学をすすめているという話を聞いている。進学希望の生徒と他産業に就職する生徒を建設業に取り込むにはどうすればよいのか検討する必要があるのではないか。	教諭が「建設業をすすめにくい」「どちらともいえない」と回答した高校は「進学・その他」の割合が高い学校がやや多い傾向である (p.254)。また、進学者は建設業に対する良いイメージが強い一方、悪いイメージも強い傾向があった (p.232)。実際に学校で進学をすすめているかどうかは設問に含めなかったため確認できなかった。
生徒が建設業を就職先として選ばなかった理由で、「学んでみて自分に合わないと思ったから」は具体的に何が合わなかったのか分析できないか。	生徒問 14「建設業を選ばなかった理由」で「学んでみて自分に合わないと思ったから」と回答した学生の特性について、「建設業に対するイメージ」と「就職に際して重視したこと」などを分析した。建設業についてのイメージは悪くはないものの、仕事内容についてのネガティブなイメージや不安がやや大きい可能性がある (p.270～275)
生徒が「一人前になれるか」に不安を感じているのは、この会社・業界でやっていけるか、ついていけるか、を心配に思っているのではないか。 建設業はスキルや資格を得るのに時間がかかる。必ずしも資格ではないのではないか。仕事を一人で任せてもらえるようになることやどこまで出来るようになることか、具体的にイメージできるように示してあげることが必要ではないか。周りになりたいイメージの人がいるかが問題ではないか。	第7章表5において「一人前になれるか」を不安に思っている生徒が必ずしも資格や教育を重視していないことについて、「キャリアアップの道筋やロールモデルなどを具体的に提示していく必要」について記述した (p.336)。

## 有識者意見の概要及び意見に対する見解

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人前になれるか」と回答している生徒は、キャリアアップよりも職人のまま                      であるというイメージを持っているのではないかと。要するに職人として一人前にな                      りたいということで、キャリアアップして、例えば社長になるとかのイメージがな                      いのではないかと。給料などよりも、手に職をつけることに関心が高いのではないかと。</li> </ul>	同上
<p>計量分析の表 8 で、建設業以外に就職している人が建設業にどれだけポジティブな                      イメージを持っているのかを検証できないかと。</p>	<p>建設業以外に就職している生徒も（建設業に就職した生徒よりは割合は低いもの                      の）建設業にある程度ポジティブなイメージを持っていることなどをクロス集計                      で分析している（p.232～234,p261～265 など）。また、イメージと就職先選択                      の関係を表 8～10 でロジット／プロビット分析している（p.343～347）。建設業                      に良いイメージを持っている生徒ほど製造業を選択する確率が低下することが                      示されている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策提言的などころでは、個社でやるのが無理なのであれば、複数の社で研修                      を行ったり、公的な制度などを利用しながらやっていくようにする。</li> <li>・私の意見では、個社では無理なので、地域の協会などでやっていくことがよいと                      考える。また、今回の調査からはあまり読み取れなかったが、会社の雰囲気など漠                      然とした不安を払拭するためには、地域の中の同業他社の同期生、同世代と一緒に                      研修したり、話をする機会、交流する機会があると意味があるのではないかと考え                      る。</li> <li>・小さい企業は、小さいからできないというのではなく、複数でやることを考える                      ほうがよい。</li> </ul>	<p>第 5 章(p.289)及び第 8 章(p.355)で、「必要に応じて業界内で協力するなどの工夫                      をして研修教育充実・・・などに取り組み・・・」等と追記した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設業の経験がある先生がいるかどうかの集計はサンプルが偏っているので、参                      考程度にみておく必要がある。</li> </ul>	<p>関係する集計は参考資料に移した（参考資料 p.83～）</p>